

平成 24 年度「大分市中心部における歩行者通行量調査」(結果)について

平成 25 年 3 月  
都心活性化推進室

1. 調査目的

中心市街地における歩行者通行量を把握することにより、「大分市中心市街地活性化基本計画」(以下、認定基本計画)における活性化目標として掲げている「歩行者通行量」の経年検証を行う。また、歩行者や通行の特性を把握し、今後の活性化施策検討のための基礎資料とする。

2. 沿革

昭和 40 年から隔年で実施しており、今年度で第 32 回目  
※ 認定基本計画における定期的なフォローアップ資料とするため、平成 20 年度より毎年実施

3. 調査方法

＜歩行者通行量調査＞ 調査員による定点観測にて実施(中心市街地 33 箇所)  
※ 本年度は、上記地点の他に 8 地点(「中央通り」横断、南口駅前広場)を追加して調査、参考資料としている。  
＜アンケート調査＞ 調査員による聞き取りにて実施(中心市街地 15 箇所)

4. 調査日時

平成 24 年 11 月 16 日(金) 11:00~19:00 天候[晴れ]  
11 月 17 日(土) 11:00~19:00 天候[雨のちくもり]  
11 月 18 日(日) 11:00~19:00 天候[晴れ]

5. 調査結果

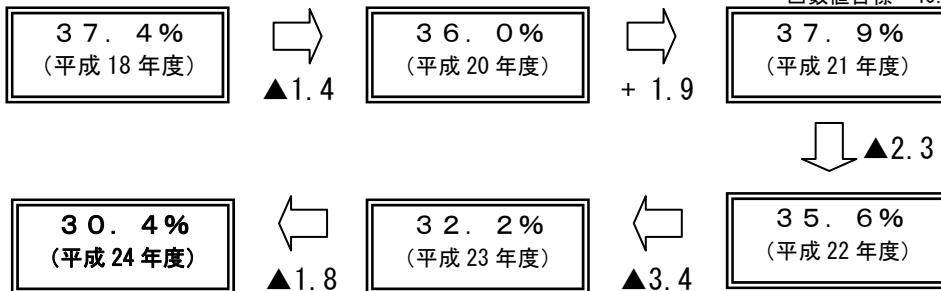
3 日間合計(33 地点合計) 408,223 人 (前年比 89.4%)  
評価指標(33 地点合計) 275,154 人 (前年比 94.4%)  
※評価指標=認定基本計画の数値目標(土日 2 日間の通行量合計)  
□数値目標=350,000 人(平成 24 年度)

歩行者通行量合計(33箇所)(単位:人) ( )内は各前回調査比(単位:%)

	金曜日	土曜日	日曜日	3日間合計	評価指標
平成18年度	156,181 ( 101.7 )	162,760 ( 92.2 )	164,073 ( 95.1 )	483,014 ( 96.1 )	326,833 ( 93.1 )
平成20年度	149,266 ( 95.6 )	161,752 ( 99.4 )	156,535 ( 95.4 )	467,553 ( 96.8 )	318,287 ( 97.4 )
平成21年度	163,371 ( 109.4 )	172,524 ( 106.7 )	144,116 ( 92.1 )	480,011 ( 102.7 )	316,640 ( 99.5 )
平成22年度	138,668 ( 84.9 )	163,130 ( 94.6 )	155,052 ( 107.6 )	456,850 ( 95.2 )	318,182 ( 100.5 )
平成23年度	122,218 ( 88.1 )	153,958 ( 94.4 )	137,577 ( 88.7 )	413,753 ( 90.6 )	291,535 ( 91.6 )
<b>平成24年度</b>	<b>133,069 ( 108.9 )</b>	<b>143,992 ( 93.5 )</b>	<b>131,162 ( 95.3 )</b>	<b>408,223 ( 98.7 )</b>	<b>275,154 ( 94.4 )</b>

＜滞在時間＞ 滞在時間が3時間以上の割合(アンケート調査より) 30.4%

※滞在時間=認定基本計画の数値目標(アンケート回答者のうち、中心部における滞在時間が3時間以上の人の割合)  
□数値目標=40.0%(平成24年度)



## 【調査結果の概況】

### ①歩行者通行量調査

本調査は、中心市街地活性化基本計画に掲げている中心市街地 33 地点に加え、中央通りの横断個所の 6 か所、さらに、本年度より大分駅南口駅前広場の東西 2 箇所を加えた、合計 41 地点で歩行者通行量調査を実施した。

中心市街地 33 地点における週末の通行量は金曜日に増加が見られたものの中心市街地活性化基本計画の目標指標である土日 2 日間の歩行者通行量は減少しており、その合計は、平成 23 年度の前回調査で初めて 30 万人を割り込み、今年度は前年比 94.4%となる、275,154 人となっている。

調査地点別では週末通行量が前年比で増加している地点は 22 地点あり、前年比では過半数の地点で増傾向を示している。エリア別では府内町エリア(14 地点)の 11 地点で前年から増加しており、一方の中央町エリア(19 地点)では 6 地点のみの増加となっている。府内町側は大分パルコ閉店の影響により昨年調査時に大きく減少していたものが若干回復したものと考えられるが、エリア全体の経年変化はほぼ同様の減少傾向となっており、エリア単位での差異は見られない。

一方、17 地点が前年よりも減少しており、平成 12 年度以降では平成 22 年度を除き通行量は減少傾向を示している。

### ②アンケート調査

中心市街地活性化基本計画の目標指標のひとつである「滞在時間（3 時間以上）」については、中心部の 16 地点で聞き取りによる調査を行っており、3 時間以上の滞在時間の割合は平成 21 年度を除き減少し、今年度は過去最低を更新する 30.4%(前年比-1.8 ポイント)となっている。

昨年の調査結果と比較すると、中央町エリア(6 地点)では概ね 5~10%程度滞在時間が上昇している一方、府内町エリア(8 地点)で上昇しているのは府内サンサン通りの 1 地点が上昇しているのみとなっている。また、年代別では、3 時間以上滞在の割合が多いのは 10 代と 20 代であり、主な来街目的もファッション・衣料等の買い物目的であることなどから、平成 23 年 1 月の大分パルコの閉店以降の、これらの年代の回遊性の減少が続いており、全体の滞在時間の減少に大きく影響しているものと考えられる。

来街者の回遊の傾向として、経年的に中央町エリアと府内町エリア相互の明確な回遊の傾向は見られていない。また、中央町側・府内町側の商店街や大型店を買い廻る明確な相関性がないことが特徴である。まちの滞在時間を延ばし、回遊性を生むためには、ハード的なバリアとなっている中央通りのあり方に加え、まち全体のソフト施策による連携を更に図ることが必要である。

中心市街地に必要な施設としては「駐車場」「トイレ」「休憩所」の順に多くなっており、前年調査と比較してもこれら 3 つの項目は共に前年よりも割合が高くなっている。

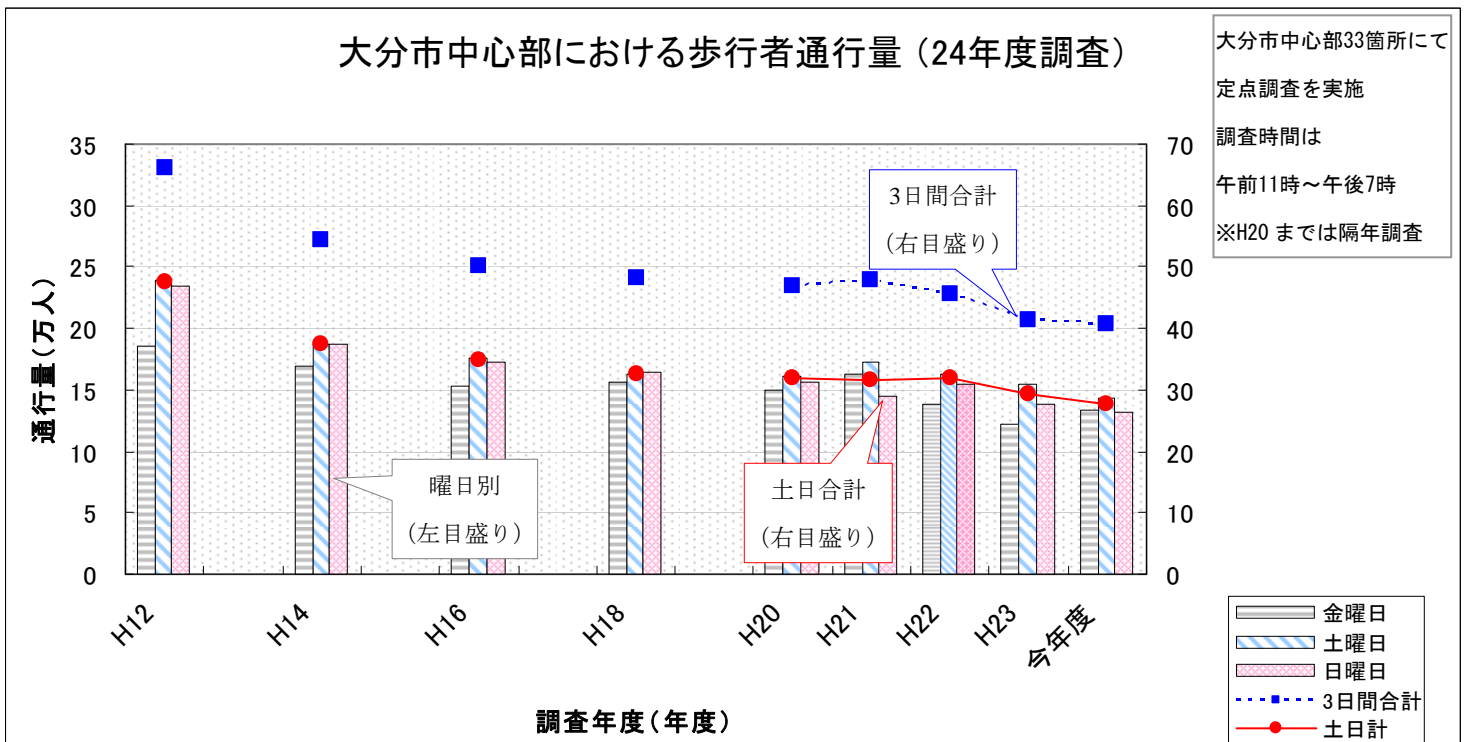
その他、中心市街地のイメージとして「今のままでよい」「街がきれいで素敵、過ごしやすい」「ゴミが落ちていなくて美しい」「おしゃれな店が最近増えた」「駅ビルや周辺開発に期待している」といったプラスイメージと、「空き店舗が多く活気がない」「自転車・歩行者の混雑で危険」「混雑が懸念される中央通りの 3 車線化に反対」「パルコ撤退を補う複合商業施設が必要」といった意見も見られており、変革が進む中心部に対する関心の高さが窺える。

【参考資料】

「歩行者通行量」の経年変化（平成12年度以降）

大分市中心部における歩行者通行量（33箇所合計）

	金曜日	土曜日	日曜日	3日間合計	前年比	土日計	前年比
H12	185,454	239,797	234,437	659,688	-	474,234	-
H14	168,499	187,398	187,621	543,518	82.4	375,019	79.1
H16	153,610	176,604	172,498	502,712	92.5	349,102	93.1
H18	156,181	162,760	164,073	483,014	96.1	326,833	93.6
H20	149,266	161,752	156,535	467,553	96.8	318,287	97.4
H21	163,371	172,524	144,116	480,011	102.7	316,640	99.5
H22	138,668	163,130	155,052	456,850	95.2	318,182	100.5
H23	122,218	153,958	137,577	413,753	90.6	291,535	91.6
今年度	133,069	143,992	131,162	408,223	98.7	275,154	94.4



まちなか滞留時間

(3時間以上滞在するひとの割合)

年度	3時間以上の割合
H12	39.8
H14	37.9
H16	38.4
H18	37.4
H20	36.0
H21	37.9
H22	35.6
H23	32.2
今年度	30.4

